

第3編 エリア別将来展望



山下中1年 武田悠太郎さん
「石巻市マンガロード」



河北中2年 須藤絢香さん
「自然に囲まれています」

1 石巻エリア

2 河北エリア

3 雄勝エリア

4 河南エリア

5 桃生エリア

6 北上エリア

7 牡鹿エリア

■エリア別将来展望策定の目的

本市は、平成17年4月1日、本庁及び6つの総合支所（7つのエリア）の体制でスタートしました。新たな市は、広大な市域を有し、北上川流域に広がった市街地、田園、リアス式海岸の沿岸部などの地勢、また、産業や伝統芸能なども地域の風土に根ざした多種多様で魅力的な特性を有しています。今後も特性を活かしながら、個性を持ったまとまりのあるエリアとして発展し、また、それぞれが一体的に結び付くことによって、より大きな魅力として創造していくことが望まれています。

このようなことから、各エリアの現状を把握し、市全体の調和に配慮しつつも特に、それぞれ固有の課題を解決しながら、だれもが誇りの持てる望ましい方向を示し、将来の目指すエリアの姿について明らかにすることを目的とします。

■エリア設定



1 石巻エリア



■ 現況

石巻エリアは、旧北上川河口の広大な平野部に位置し、平たんで良好な田圃、万石浦や日和山など四季折々の彩りをみせる風光明媚な自然景観を有しているほか、本市の政治・経済・文化・教育の中心的な役割を担うとともに、鉄道やバス、離島航路、三陸縦貫自動車道、国・県・幹線市道など、交通の要衝としての機能を担っている人口115,588人（平成17年国勢調査）のエリアです。

市街地の中心部においては、市役所本庁のほか、国・県の地方機関などの行政施設や市民会館、文化センター、図書館などの文化施設、銀行や商業施設、病院など市民の生活を支える多様な機能が集積しています。

臨海部においては、石巻漁港を中心とした水産加工や食品製造、また、石巻港を中心としたパルプ・紙製造や木材・木製品製造、鉄鋼業などが盛んに行われ、本市の第2次産業の拠点としての役割を担っています。

稲井地区においては、地域産業の高度化や新たな産業の創造を図るため、各種企業を積極的に誘致しています。

渡波地区においては、「慶長遣欧使節」の歴史的偉業と帆船の知識を楽しく学ぶことができる施設としての「サン・ファン・パウティスト」を中心としたミュージアムとパークが整備され、海洋文化創造の拠点を担っています。

萩浜地区においては、「かき」などの豊かな海を活用したつくり育てる漁業が盛んに行われています。

旧北上川河口の中瀬においては、「旧石巻ハリストス正教会教会堂」や「石ノ森萬画館」などの観光施設があり、また、中心市街地と一体となった「川開き祭り」をはじめとしたさまざまなイベントが開催され、多くの観光客が訪れています。

蛇田地区においては、新住宅地の開発が進んでいるほか、石巻河南インターチェンジ周辺では、大型郊外店の立地が進み、また、「石巻赤十字病院」が移転新設されるなど、新市街地として大きく発展しています。さらには、稲井及び渡波地区においても住宅地の整備が図られ、良好で快適な住環境が整っています。

■ 主要課題

本エリアは、本市の行政・経済の中心としてその役割を担ってきましたが、中心市街地の空洞化が進行していることから、多様な機能の集積など中心市街地活性化対策が必要とされているとともに、公共施設についても、市役所本庁舎の老朽化が著しいことなどから、行政組織の集約による効率的な運営や総合支所間の連携強化を図るため、また、市民協働の場や防災の拠点としての新庁舎の建設が必要となっています。

依然停滞傾向にある本市全域の産業活性化を図るため、石巻専修大学との協力の下、産学官の連携の強化などによる先導的な役割を果たすことが必要となっています。また、本エリアを中心とした全市的な総合交通体系の構築を図るとともに、石巻港や三陸縦貫自動車道などの優位性を活かした産業交流拠点として、他エリアからの利便性を確保し、多様な資源を活かしていく必要があります。

人口の集積に対して下水道等の整備が遅れ、万石浦の水質など周辺の自然環境への負荷も大きくなっていることから、生活排水への対策のほか、魚町の化製場等による悪臭、航空機による騒音等の公

害対策への取組みなど、生活環境の向上に努める必要があります。

また、旧北上川河口部ではいまだに無堤防区間が残されていること、また、人口集中地区であることから、地震による甚大被害が予想されるため、市民生命の安全と財産の保護への対策強化を図る必要があります。

■ 将来展望

港湾機能が充実した石巻港と遠洋沖合・沿岸漁業の基地としての石巻漁港が活性化されているとともに、市内各地域との交流を支える情報・人・道路などのネットワークが強化され、行政・経済活動の中核として、医療、福祉、教育、商業、文化、スポーツ、交流、居住などのさまざまな都市機能が集積された、市民が集い・にぎわい・楽しめる中心都市核が形成され、元気で文化的な生活が営まれています。

■ 施策展開の方向

- 行政運営及び市民活動の中心としての市役所本庁舎を建設し、市民等との協働によるまちづくりを推進します。
- 子どもたちに安全で充実した教育環境を提供するため、文部科学省の幼稚園、小学校、中学校、高等学校別に策定されている施設整備指針にのっとり、校舎等の地震防災対策や大規模改造事業等による施設の整備を進めます。
- 石巻専修大学立地の強みとエリア内の機能集積を活かし、産学官の連携により、新たな産業の創出や起業化を図り、多様な雇用機会の創出を推進します。
- 中心市街地に多様な機能を集積し、利便性の高い空間形成を図るとともに、市民が楽しく過ごせる、にぎわいの場を創出します。
- 安心・安全な生活を確保するため、防災・減災を推進するとともに、助け合いの仕組みを充実します。
- 自然環境の保全を図り、自然に負荷の少ないライフスタイル（生活の仕方）の実践を促進します。
- 悪臭や騒音対策を推進するとともに、省資源化や循環利用を促進します。
- 文化芸術・スポーツ活動の中心として、施設のネットワーク化や市民協働による多様な事業の充実により、交流が盛んに行われる環境づくりを推進します。
- 道路・情報ネットワークにより人・物・情報が交流する、各エリアとの一体化を推進します。

2 河北エリア



■ 現況

河北エリアは、悠久の流れを誇る北上川やその周辺を彩る四季折々の草木、北上山系から連なる現上山・上品山等の眺望の優れた山々、また、海洋に面した長面・尾の崎地区、白鳥が飛来する富士沼や長面海岸の水面など、水と緑に囲まれ、多様な自然に恵まれた人口12,508人（平成17年国勢調査）のエリアです。

エリア面積125.09k㎡の22.4%を占める農用地では、北上川流域の肥よくな土地を活用した農業が盛んで、「ササニシキ」や「ひとめぼれ」を中心とした稲作と畜産との複合経営、「いちご」、「ミニトマト」、「つぼみ菜」などの施設園芸や「麦」、「大豆」、「セリ」の団地化などを組み合わせた生産性の高い農業経営に取り組んでいます。

また、栄養分豊富な淡水と海水が混じり合う長面浦では「かき」の養殖が行われ、内水面漁業^{ないすいめんぎょぎょう}では、北上川の「しじみ」の採取や「さけ」のふ化・放流が行われています。

エリアの57.3%を占める森林は、林産物^{りんさんぶつ}の生産、水源かん養^{すいげんかんよう}、自然・生活環境の保全など、多様な公益機能^{こうい機能}を有しており、地域住民の生活に多大な恩恵をもたらしています。

「追波川河川運動公園」や「河北総合センター（ビッグバン）」などのスポーツ文化施設では、幼児から高齢者まで、気軽に体育・文化・学習・交流活動が行われ、「情報プラザ（メディアシップ）」においては、人・物・情報の交流拠点としての施設機能を果たしています。

道路交通基盤においては、平成15年の三陸縦貫自動車道河北インターチェンジの開通やアクセス道となる一般国道45号川の上バイパスの整備により、高速交通体系の利便性が高いエリアとなっています。

この河北インターチェンジを効果的に活かし、農業や商業の再生と雇用の確保、交流人口の増大を図るため、経済・情報・交流の場として道の駅「上品の郷」を整備し、にぎわいの場の創出を図っています。

■ 主要課題

本エリアは、北上川と肥よくな土地を有していることから、安定した産業の育成と環境に調和した住民生活を保持するため、効率的・安定的経営体の育成及び後継者・新規就農者を確保し、安定した農業経営の確立を一層推進する必要があります。

森林においては、木材需要の低迷や林業経営費の上昇など、林業を取り巻く環境が厳しさを増すとともに、間伐や撫育^{ぶいく}などが適切に行われていない森林も増えていることから、計画的な森林整備・管理を行う必要があります。

商業環境においては、郊外型複合店舗の進出により、変化と活力が生まれつつありますが、旧来の商店街からの顧客の流出が深刻化しており、商店経営の近代化等が課題となっています。

また、経済・情報・交流の場である道の駅「上品の郷」を活用した地域振興、恵まれた自然環境の保全と活用方策を検討し、第1次産業の振興とあわせ自然環境を活用した、グリーン・ツーリズム^{グリーン・ツーリズム}などの観光振興を図る必要があります。

教育においては、宮城県沖地震の発生が高い確率で予測されていることから、学習環境の整備とあわせ耐震化を図る必要があります。

保健医療においては、特に医師充足率が低いエリアとなっていることから、早期に検討整備する必要があります。

防災対策においては、変化に富んだこう配が急な地形となっていることから、急傾斜地等の崩壊による生活道路の寸断、高潮、津波、波浪、海岸浸食などのさまざまな自然災害対策に取り組む必要があります。

また、本エリアの中央を流れる北上川及び関連水系において、大雨時に濁流・流木、^{とつすい}越水被害や異常洪水時の被害も発生していることから、それらの対策も関係機関に働きかけていく必要があります。自然及び生活環境を保持するため、公共下水道や集落排水事業を計画的に整備する必要があります。

■ 将来展望

広大な農地、森林や北上川、^{ながつら}長面海岸域などの豊かな自然環境を活用した農業、林業、畜産業、漁業に体験型観光などの取組みが行われ、教育、商業、スポーツ、文化、交流、居住、交通体系、そして治安などの多様な都市機能が集積した活気ある生活が営まれています。

■ 施策展開の方向

- 「河北総合支所」・「河北総合センター（ビッグバン）」を拠点に、市民参加による生涯学習や地域活動を活発に行い、まちづくりや地域文化の継承等、多様な活動を促進します。
- 子どもたちに安全で充実した教育環境を提供するため、情報機器教育の継続と耐震診断に基づく施設の補強対策等を進めます。
- ほ場整備事業やかんがい排水事業などにより農業の産業基盤を確立し、生産環境の改善と経営体の育成を図るとともに、生産性の高度化と生産品の高付加価値化などを図ります。
- 人々のゆとりや潤いの空間として、グリーン・ツーリズム[※]による都市住民との交流を図り、豊かな自然環境の活用を促進します。
- 活力ある地域づくりを進めるため、特色ある地域イベントの協働による開催に努めます。
- 保健・医療環境の整備に努め、安心して医療が受けられる地域社会と健康づくり施策を積極的に推進します。
- 津波や高潮などによる災害時の被害を軽減するため、海岸保全施設未整備地区の整備促進を図ります。
- 地震や水害などの自然災害に対応するため、関係機関との連携を強化し、防災施設の整備と自主防災組織の育成などによる防災体制の整備を促進するとともに、安心して暮らせる環境の構築を図ります。
- ^{ながつら}長面海岸浸食対策及び急傾斜地崩壊対策事業等の防災対策事業を促進します。
- 既存県道の整備促進を関係機関に働きかけるとともに、地域性を踏まえた公共交通の確保により、住民生活や経済活動の利便性向上と地域間交流の活性化を図ります。
- 自然との共生を図るため、生活排水対策など自然への負荷の少ない生活環境を形成し、快適で豊かなライフスタイル（生活の仕方）の実践を促進します。

3 雄勝エリア



■ 現況

雄勝エリアは、東に太平洋を望み、その景観はリアス式海岸特有の雄大で風光明媚な海岸線を見せ、中でも太平洋を一望できる「白銀崎」は、みやぎ新観光名所 100 選に選ばれています。また西は牡鹿半島随一の高さを誇る硯上山がそびえ、国の指定を受けている天然記念物「八景島暖地性植物群落」などを有する多様な自然に恵まれた人口 4,694 人（平成 17 年国勢調査）のエリアです。

本エリアでは、豊かな海が人々の生活を支え、その豊かな海がはぐくむ水産業は、宮城県内有数の生産量を誇る「ほたて」の養殖を始め、「岩がき」、「ほや」、「ぎんざけ」、「わかめ」、「うに」や「あわび」などの多彩な海産物を有しています。特に「岩がき」は、専用の研究施設を漁業協同組合が設置し、宮城県及び市の協力を得ながら種苗化に成功、雄勝エリアの新たな特産品として期待されています。また、600 年以上の伝統を誇る国指定の伝統的工芸品「雄勝硯」の産地として、さらには、国指定重要無形民俗文化財「雄勝法印神楽」、宮城県指定無形民俗文化財である名振の「おめつき」など、地域に根付いた歴史文化が今も受け継がれているほか、「伊達の黒船太鼓」など創作芸能活動も行われています。

生活を支える豊かな海は、海洋レジャーなどの観光拠点ともなり、多くの釣り客が訪れるほか、「雄勝海洋センター」ではカヌーやヨット、ボートなどの体験学習も行われています。さらに体育館、柔剣道場、プールを備えた施設での体育・交流活動も盛んに行われています。

「雄勝森林公園」は、自然の中で宿泊することができるコテージなどが設置され、多くの家族連れでにぎわいを見せています。また、「峠崎自然公園」や「雄勝硯 伝統産業会館」など、自然を感じ、歴史に触れることができるエリアでもあります。

■ 主要課題

本エリアは、リアス式海岸特有の雄大な景観を有する反面、平たん地が少ない地形となっています。そのため人家は、比較的平たん地が多い雄勝地区に集中し、その他は山間の極めて狭い平たん地に散在しています。高齢化率[※]も 31.6%（平成 12 年国勢調査）と非常に高く、コミュニティ（地域社会）の維持が大きな課題となっています。

また、牡鹿半島の北方に位置し、エリア中心部から東部は小半島を成していることから、交通と情報のネットワークは生活における極めて重要な要素となっています。特に道路の整備は、流通体系の確立と災害時の避難の観点から最も重要な課題と位置付けられます。

産業としては、豊かな自然環境を最大限活かし、基幹産業である水産業を活性化するとともに、担い手の育成が求められているほか、新たな養殖品目の開発とグリーン・ツーリズム[※]やブルー・ツーリズム[※]など多様な体験型観光による観光振興を図る必要があります。

リアス式海岸特有のこう配が急な地形による土砂災害や高潮、津波などの被害、台風、豪雨による水害など、自然災害により甚大な被害も想定されることから、未然に防ぐ防災体制や安全で迅速に避難することが可能な体制の整備促進など、地域の防災力を高める必要があります。

海と森の保全と共生を目指すライフスタイル（生活の仕方）を確立するとともに、長い歴史を持つ伝統や文化を、これからも継承していく必要があります。

■ 将来展望

リアス式海岸特有の自然環境を活用した「つくり育てる漁業」が栄えるとともに、「雄勝^{オホノボ}硯」を活かした地場産業や海洋スポーツ、レジャーの機能を活かした交流などの取組みが行われ、自然と調和・共生した心ゆたかな生活が営まれています。

■ 施策展開の方向

- 「雄勝総合支所」・「雄勝公民館」を拠点に、市民参加による生涯学習や地域活動を活発に行い、まちづくりや地域文化の継承等、多様な活動を促進します。
- 子どもたちに安全で充実した教育環境を提供するため、老朽化した校舎等の整備を図りながら地域の実情に即した学校施設のあり方について検討を行います。
- 漁港等を整備するとともに、豊かな森と海の恵みにはぐくまれた「ほたて」や「岩がき」など、新鮮な地場産品の地域ブランドの確立や高付加価値化を図り、地域基幹産業である水産業の振興に努めます。
- 長い歴史を持つ「雄勝^{オホノボ}硯」や天然スレートなどの雄勝石産業を保護育成し、貴重な地域財産として活用を図ります。
- 人々のゆとりや潤いの空間として、グリーン・ツーリズム^{*}、ブルー・ツーリズム^{*}などによる交流を図り、リアス式海岸特有の雄大な海岸景観や山間部の豊かな自然環境の活用を促進します。
- 活力ある地域づくりを進めるため、「ホタテまつり」などの特色ある地域イベントの協働による開催に努めます。
- 子育て支援センターをあわせ持つ施設として雄勝保育所の移転整備を図るとともに、総合的な幼児教育の場の提供を図るため、幼稚園と保育所の一体化を目指します。
- 津波や高潮などによる災害時の被害を軽減するため、海岸保全施設未整備地区の整備促進を図ります。
- 地震や水害などの自然災害に対応するため、関係機関との連携を強化し、防災施設の整備と自主防災組織の育成などによる防災体制の整備を促進するとともに、安心して暮らせる環境の構築を図ります。
- 長年培われてきた「雄勝法印神楽」や名振の「おめつき」などの伝統芸能を地域独自の文化として広く周知します。
- 国道398号、県道石巻雄勝線、県道釜谷大須雄勝線の整備促進を関係機関に働きかけるとともに、地域性を踏まえた公共交通の確保により、住民生活や経済活動の利便性向上と地域間交流の活性化を図ります。
- 自然との共生を図るため、生活排水対策など自然への負荷の少ない生活環境を形成し、快適で豊かなライフスタイル（生活の仕方）の実践を促進します。
- 移動通信電話やブロードバンド^{*}などの情報通信基盤の整備を促進し、未使用エリアや難視聴地域の解消など、都市部との情報格差の是正を図ります。

4 河南エリア



■ 現況

河南エリアは、北上川の南に拓けた平たん肥よくな田園と、西方には桜の名所としても知られる県立自然公園「旭山」を中心に美しい緑の丘陵が走る、自然の変化に富んだ人口 17,522 人（平成 17 年国勢調査）のエリアです。

本エリアは、面積の 55%が農用地で、北上川の豊かな水にはぐくまれた肥よくな土地を活用した「サニシキ」や「ひとめぼれ」など良質米の主産地であるとともに、より効率的、安定的な生産を図るため、ほ場の基盤整備にも積極的に取り組んでいます。施設園芸では「きゅうり」をはじめ、「トマト」や「いちご」など多様な野菜の生産も盛んに行われています。

一方、エリアの南東部では、宅地開発による都市化も進展し、その中心となる「しらさぎ台団地」においては、豊かな自然に恵まれた環境が魅力となり、住宅建設が整調に進行しています。

また、多目的ふれあい交流施設「遊楽館」においては、文化ホール、アリーナ、室内プール、図書館分館などの施設が、文化交流や健康増進、生涯学習の拠点として活用されるとともに、隣接する国際公認コースの「かなんパークゴルフ場」では、冬期間も利用できる立地条件を活かし、エリア内はもとより、「石巻市」を全国にアピールできる大きな素材として、さまざまな施策と連動した活用が期待されています。

道路整備については、国道 108 号の渋滞解消と高規格幹線道路とのネットワーク化を図るため、地域内の国道整備が求められています。

■ 主要課題

本エリアは、本市の農業生産及び「いしのまき産ブランド」の中核、そしてまた「食材王国みやぎ」の一翼を担う農業エリアとして、引き続き、ほ場の基盤整備を進めるとともに、食の安全・安心をセールスポイントとするなど、生産性と競争力を備えた農業を実現する必要があります。

また、都市との交流による農村の活性化のため、美しい農村風景、農村資源を活かし、農業体験などを通じた交流を積極的に推進する必要もあります。

「遊楽館」においては、施設の特性を活かし、市内だけでなく周辺地域から人々が集う文化芸術交流などをさらに推進するとともに、「かなんパークゴルフ場」では、利用者の利便性向上のため、附帯施設の整備が必要です。

道路整備としては、国道 108 号における慢性的な渋滞箇所の解消と、さらには今後の地域活性化の観点から、東北縦貫自動車道、三陸縦貫自動車道などの高規格幹線道路と広域的な地域連携を図るため、石巻新庄間道路の早期整備が必要です。

平成 15 年に発生した宮城県北部連続地震により、本エリアは家屋の倒壊や急傾斜地の崩壊など大きな被害を受けました。それらの被害を教訓に、今後高い確率で発生すると予測されている宮城県沖地震に備え、被害の未然防止や避難体制など、住民の安全性を確保する体制の構築が必要です。

■ 将来展望

あさひやま
「旭山」の眼下に広がる豊じょうな大地を活用した農業エリアと、自然と調和した都市エリアがそれぞれに発展しているとともに、芸術・文化・スポーツのほか、医療、福祉、健康、教育、居住が広域的都市機能と連携し、コミュニティ（地域社会）も活発に機能した安全で安心な生活が営まれています。

■ 施策展開の方向

- 「河南総合支所」・「遊楽館」ゆうらくかんを拠点に、市民参加による生涯学習や健康づくり、地域活動を活発に行い、まちづくりや地域文化の継承等、多様な活動を促進します。
- 子どもたちに安全で充実した教育環境を提供するため、老朽化した校舎等の整備と、青少年の健全育成のため、地域・家庭・学校の連携を密にした地域教育力の活性化を図ります。
- ほ場整備事業などにより農業の生産基盤を確立し、生産環境の改善と経営体の育成を図るとともに、生産性の高度化と生産品の高付加価値化などを図ります。
- 食の安全・安心については、資源循環型施設「かなん有機センター」の完熟堆肥を活用した農産物により、農産物直売所をはじめとし、各種イベントやインターネットを通じて、消費者へ浸透を図ります。
- 人々のゆとりや潤いの空間として、グリーン・ツーリズム[※]による都市住民との交流を図り、豊かな自然環境の活用を促進します。
- 「遊楽館」ゆうらくかんにおいては、優れた音響効果を有する「かなんホール」やさまざまな活動に対応できる複合施設の優位性などを広くPRするとともに、定期的な芸術文化活動を充実させ市内外の人々との交流の活性化を図ります。
- 「かなんパークゴルフ場」においては、休憩室や食事スペースなど附帯施設の充実による利便性の向上を進め、さらに、誘客を主眼とした各種競技会の招致を目指します。
- 宮城県北部連続地震による被害を教訓とし、地震や水害などの自然災害に対応するため、関係機関との連携を強化し、防災施設の整備と自主防災組織の育成などによる防災体制の整備を促進するとともに、安心して暮らせる環境の構築を図ります。
- 高速交通ネットワークを形成するため、石巻新庄間道路の整備促進を関係機関に働きかけるとともに、地域性を踏まえた公共交通の確保により、住民生活や経済活動の利便性向上と地域間交流の活性化を図ります。

5 桃生エリア



■ 現 況

桃生エリアは、本市の北部に位置し、県北地域への交通の要衝^{ようしゅう}である地域特性を有し、北上川に囲まれた肥よくな田園地帯として発展してきました。また、エリアの北部から北東部は緩やかな丘陵地帯となっているなど、田園風景と牧歌的な風景を持つ人口8,102人（平成17年国勢調査）のエリアです。

北上川流域の肥よくな土地を活用した農業が盛んで、「ササニシキ」や「ひとめぼれ」の一大産地となっているほか、「小ねぎ」、「ガーベラ」などの施設園芸や畜産も盛んです。

西暦758年に蝦夷^{えみし}に対する軍事拠点として桃生城が構築されるなど、古くから人々の生活が営まれてきました。そして、先人たちから、多くの伝統文化と民俗芸能が今に受け継がれ、寺崎と櫻崎の「法印神楽」は県の無形民俗文化財として、「はねこ踊り」は市の無形民俗文化財として伝承されるとともに、チュニジア共和国などの諸外国も含めた他の地域との文化交流が盛んに行われています。

また、「桃生総合支所」・「桃生公民館」が複合施設として整備されるとともに、平成19年には三陸縦貫自動車道桃生豊里インターチェンジ・桃生津山インターチェンジの供用が開始され、市民活動の活発化や広域交通の利便性が向上し、産業・観光などを通じたさまざまな交流活動へ活かされることが期待されています。

■ 主要課題

本エリアは、北上川流域の肥よくな土地を活用した農業や畜産業が営まれていることから、農畜産物の安定した生産体制と地域ブランドの確立を目指した新しい農業を推進するとともに、三陸縦貫自動車道を利用した流通体系の整備及び交流の拡大と、関係団体との連携強化により地域資源や地場産品を活かした産業の振興を図る必要があります。

子育て支援については、核家族化や少子化の進行による、育児に対する保護者等の身体・心理的負担を軽減するため、子育て家庭に対する支援施策を推進する必要があります。

教育については、学校教育環境の充実や、教育と保育の一体的で効率的な施設の整備を図る必要があります。

生活環境については、自動車社会に適合した円滑で安全な道路交通体系や施設整備を行うとともに、生活衛生・営農環境上、生活雑排水の流入による問題を抱えていることから、生活排水対策を図っていく必要があります。

また、住民活動の支援としては、「桃生総合支所」・「桃生公民館」において、図書館分館や文化ホール、屋外イベント広場など、住民が集い、憩う場としての機能が充実していることから、その効果的な活用を図るとともに、伝統芸能をコミュニティ（地域社会）の形成と結び付け、地域の独自性を活かした国内外との多様な交流を推進する必要があります。

防災対策としては、北上川及び迫川、江合川が合流する旧北上川に囲まれ、台風・豪雨による水害や地震などの自然災害による甚大な被害も想定されることから、関係団体との連携の下、災害を未然に防ぐための防災施設や防災体制の整備、災害時における迅速で的確な対応を可能とする地域防災力の向上を図る必要があります。

■ 将来展望

雄大に流れる北上川に囲まれ、自然と調和した生活環境の中で、肥よくな大地を活かした農業が発展し、いにしえより培われてきた「はねこ踊り」などの豊かな地域文化がはぐくまれ、活発に機能したコミュニティ（地域社会）と福祉施策の充実した安全で安心な生活が営まれています。

■ 施策展開の方向

- 「桃生総合支所」・「桃生公民館」を拠点に、市民参加による生涯学習や地域活動を活発に行い、まちづくりや地域文化の継承等、多様な活動を促進します。
- 子どもたちに安全で充実した教育環境を提供するため、耐震診断に基づく学校施設の補強対策等を進めるとともに、老朽化した施設の整備を図ります。
- かんがい排水事業などにより農業の産業基盤を確立し、生産環境の改善と経営体の育成を図るとともに、生産性の高度化と生產品の高付加価値化などを図ります。
- 子育て支援センターの設置等により、子育てに対する支援施策を推進するとともに、総合的な幼児教育の場の提供を図るため、幼稚園と保育所の一体化を目指します。
- 地震や水害などの自然災害に対応するため、関係機関との連携を強化し、防災施設の整備と自主防災組織の育成などによる防災体制の整備を促進するとともに、安心して暮らせる環境の構築を図ります。
- 「はねこ踊り」などの伝統芸能により地域活動を活性化するとともに、住民のコミュニケーションの場の創出と地域間交流の充実を図ります。
- 主要地方道河南米山線、主要地方道河北桃生線の桃生総合支所前交差点の付け替え整備の促進を関係機関に働きかけるとともに、地域性を踏まえた公共交通の確保により、住民生活や経済活動の利便性向上と地域間交流の活性化を図ります。
- 自然との共生を図るため、生活排水対策など自然への負荷の少ない生活環境を形成し、快適で豊かなライフスタイル（生活の仕方）の実践を促進します。

6 北上エリア



■ 現況

北上エリアは、北上川の河口と太平洋（追波湾）に面しています。東部はこう配が急な山々が海に落ち込んだリアス式海岸が続き、風光明媚な自然景観に恵まれています。西部は北上川沿いの平野部に農地が広がっています。エリアの大半を山林が占めており、イヌワシの生息地として知られる翁倉山などが北側に連なっています。北上川河畔には、「日本音風景100選[※]」にも選ばれたヨシ原が広がる、貴重で豊かな自然を有している人口4,028人（平成17年国勢調査）のエリアです。

産業は、山・川・海といった豊かな自然環境の下、多様な第1次産業が中心となっており、稲作と畜産を基幹とした複合経営や、追波湾での「わかめ」や「こんぶ」、「ほたて」などの養殖漁業が盛んなほか、北上川ではしじみ漁なども営まれています。

自然を活かした観光資源として、「神割崎」や「白浜海水浴場」、「釣石神社の巨石」などがあり、地域産業との連携による観光と物産のイベントなども開催されています。

生涯スポーツの核としては、「にっこりサンパーク」があり、各種スポーツ大会の場として、また、気軽に参加できる健康増進の場として活用されています。

また、「北上総合支所」と「北上公民館」が整備されるとともに、「河川公園」や「水辺センター」の完成により、今後の市民によるまちづくり活動の活性化が期待されています。

■ 主要課題

本エリアは、良好な自然環境の中で生活が営まれてきており、この環境をこれからも守り育て、将来にわたり受け継いでいく必要があります。

地域の基幹産業の一つとなっている農業は、エリアの大半が山林と北上川などの河川が占め、耕地面積が少ないことから、農家1戸当たりの経営面積が小さく、大部分が兼業農家であることや、後継者の不足、高齢化等の問題を抱えており、経営基盤は不安定な状況となっています。

また、水産業においては、漁業とともに加工販売もあわせ行っていることから、エリア経済に占める割合は高いものの、沿岸域の環境変化への対策や、産地間競争に打ち勝つためのブランド化[※]、品質の向上などが課題となっています。

唯一の公共交通機関である路線バスが利用者の減少により廃止されるため、今後の公共交通のあり方が検討課題となっています。また、住民の交通手段はほとんどが自家用車利用に依存していることから、市の中心部や三陸縦貫自動車道へのアクセス道路などの基幹道路の整備が重要となっています。

リアス式海岸特有のこう配が急な地形による土砂災害や高潮、地震、津波などの被害、台風、豪雨による水害など、自然災害による甚大な被害も想定されることから、災害を未然に防ぐための防災施設や体制の整備、安全で迅速に避難することが可能な体制の整備促進など、地域の防災力を高める必要があります。

■ 将来展望

北上川のヨシ原と「^{おっぱ}追波湾」、そして「^{かみわりざき}神割崎」が織り成す風光明媚な景観をシンボルとして、自然の恵みを活用した農漁業が発展しているとともに、文化、スポーツなどの生涯教育活動が活発に行われ、自然と共生するゆとりある生活が営まれています。

■ 施策展開の方向

- 「北上総合支所」・「北上公民館」を拠点に、市民参加による生涯学習や地域活動を活発に行い、まちづくりや地域文化の継承等、多様な活動を促進します。
- 子どもたちに安全で充実した教育環境を提供するため、校舎等の整備を図りながら地域の実情に即した教育環境のあり方について検討を行います。
- ほ場整備事業や水産基盤整備事業などにより農林水産業の産業基盤を確立し、生産環境の改善と経営体の育成を図るとともに、生産性の高度化と生產品の高付加価値化などを図ります。
- 全国的に有名な北上川のヨシ原や「^{かみわりざき}神割崎」などの観光資源と豊富な農林水産物などを活用して地域産業の確立を図るとともに、グリーン・ツーリズム[※]による都市住民との交流を図り、豊かな自然環境の活用を促進します。
- 貴重な自然環境を将来にわたって保全・整備し、教育やレクリエーションなどの自然学習や体験の場として有効な活用を図ります。
- 子どもから高齢者までが正しい食生活を通じて健康で豊かな暮らしを送れるよう、地域・家庭・学校などが連携して、食生活の改善を図ります。
- 子育て支援センターをあわせ持つ施設として、相川保育所の移転整備を図ります。
- 地震、津波、高潮及び風水害などの自然災害に対応するため、関係機関との連携を強化するとともに、消防防災施設の整備と自主防災組織の育成、避難場所の確保などによる防災体制の整備を促進し、安心して暮らせる環境の構築を図ります。
- 国道398号及び主要地方道北上津山線などの整備促進を関係機関に働きかけるとともに、地域性を踏まえた公共交通の確保により、住民生活や経済活動の利便性向上と地域間交流の活性化を図ります。
- 自然との共生を図るため、生活排水対策など自然への負荷の少ない生活環境を形成し、快適で豊かなライフスタイル（生活の仕方）の実践を促進します。
- 移動通信電話やブロードバンド[※]などの情報通信基盤の整備を促進し、未使用エリアや難視聴地域の解消など、都市部との情報格差の是正を図ります。

7 牡鹿エリア



■ 現況

牡鹿エリアは、牡鹿半島の突端に位置し、三方を海に囲まれ網地島と金華山の2つの離島を有しています。

海岸線は三陸特有のリアス式海岸で、地域の8割以上が森林に覆われており、海と緑が調和した人口4,882人（平成17年国勢調査）のエリアです。

本エリアは、世界三大漁場の一つにも数えられる金華山沖の豊かな漁場と恵まれた地形により、漁船漁業や養殖漁業が地域の経済を支えています。

鮎川では古くから捕鯨が栄えてきましたが、昭和57年の国際捕鯨委員会（IWC）において商業捕鯨モラトリアムが採択され、その後商業捕鯨は全面凍結となっています。

商業捕鯨凍結後は、調査捕鯨が行われてきましたが、平成15年4月からは鮎川港を中心とした半径50マイルの範囲内で小型捕鯨船による沿岸調査捕鯨が開始されています。

全国的にも知名度の高い金華山には、観光客や参拝客が多く訪れているほか、豊かな自然や新鮮な魚介類、また、鯨文化を継承するシンボル施設として建設された「おしかホエールランド」など、多様な観光資源が観光振興の一助となっています。

本エリアの保健・医療・福祉の拠点として、福祉パーク構想に基づき、牡鹿病院、牡鹿保健福祉センターが整備され、平成17年には、図書館分館や温水プールなどを完備し、健康増進などを目的とした牡鹿交流センター「ほっとまる」が建設され、市民の健康増進、福祉向上に活用されています。

■ 主要課題

本エリアは、半島という地理的要因から、市域中心部や他地域との連携強化のための主要道路の整備を中心とした交通環境の改善に取り組む必要があります。

高齢化率^{*}も33.4%（平成12年国勢調査）と他のエリアと比較すると非常に高く、牡鹿病院や牡鹿交流センター「ほっとまる」などが整備された総合福祉パークを活用し、保健・医療・福祉の面での充実を図る必要があります。

学校教育施設は、小学校4校と中学校が3校あり、老朽化の進んでいる施設や、生徒数の減少により複式学級^{*}となっている学校も見られることから、施設整備や学校統合についての検討を進めていく必要があります。

金華山沖の豊かな漁場を背景とした環境を活かし、「つくり育てる漁業」を柱とした水産業の振興とあわせ、地場産業や住民生活の基盤である自然環境を守るため、松くい虫や生活排水等の被害から森林環境と海洋環境の保全を図り、歴史ある捕鯨文化の継承と商業捕鯨再開に向けた粘り強い取り組みが必要となっています。

また、多様な資源を活用した観光拠点として、観光振興を図るとともに、金華山及び半島部において生息しているシカによる食害等も顕在化していることから、自然環境との共生について、そのあり方を検討していく必要があります。

平たん地が少ないことから、台風や豪雨による土砂災害などの被害が心配され、また、リアス式海岸で集落のほとんどが海岸線に面していることから、津波・高潮・波浪による被害や宮城県沖を震源とする地震による被害も予想され、さらに、これら自然災害により半島部主要道路へ被害が及んだ場

合には、中心部への交通手段を失うなどの課題を抱えています。こうした災害に対する防護策として、防潮堤の整備やがけ崩れへの対策などハード面における防災基盤整備やソフト面における防災体制づくり、また、立地する女川原子力発電所の安全性確保のための監視体制の強化など、安全性を確保する取り組みが必要となっています。

■ 将来展望

あじしま
牡鹿半島・網地島の持つ雄大で豊かな自然環境を活用した漁業と、独自性のある捕鯨文化や霊島「金華山」を活用した観光産業が発展するとともに、医療、福祉のほか、健康増進の機能を活かし、離島を含めた安全で安心な生活が営まれています。

■ 施策展開の方向

- 「牡鹿総合支所」・「牡鹿公民館」を拠点に、市民参加による生涯学習や地域活動を活発に行い、まちづくりや地域文化の継承等、多様な活動を促進します。
- 子どもたちに安全で充実した教育環境を提供するため、耐震診断に基づく施設の補強対策等を進めるとともに、学校統合問題について継続的な検討を行います。
- 金華山沖を中心とした半島地域特有の豊かな自然環境にはぐくまれた「あなご」や「さば」、「かき」、「ほや」など、新鮮な地場産品の地域ブランドの確立や高付加価値化を図り、地域基幹産業である水産業の振興に努めます。
- 歴史ある捕鯨文化の継承と商業捕鯨再開に向け、粘り強い取り組みを今後も継続的に進めます。
- 半島・離島の雄大な自然景観を活かし、独自性のある捕鯨文化を継承する「おしかホエールランド」を核とし、「おしか鯨まつり」や「おしか浜っこまつり」など、地域イベントの開催を通じ、都市部や他地域との交流を促進します。
- 「海」・「漁業」・「体験」をキーワードとした「漁業体験型観光」など、さまざまな資源を有機的に結び付けた新たな産業の掘り起こしを図り、観光を地域の基幹産業へと育てる取り組みを促進するとともに、本市の観光の拠点としての充実を図ります。
- 豊かな自然環境に包まれた「総合福祉パーク」へ多くの市民が訪れ、「ほっとまる」等を活用しながら、健康増進と福祉の向上に努めます。
- 市内各病院との連携により、半島・離島地域の医療の充実を図り、地域住民の安心確保に努めます。
- 保育施設の耐震安全性の確保を図りながら、より良い保育環境の整備に努めるほか、子育て支援事業などの少子化対策の推進に努めます。
- 津波や高潮などによる災害時の被害を軽減するため、海岸保全施設未整備地区の整備促進を図ります。
- 地震や水害などの自然災害に対応するため、関係機関との連携を強化し、防災施設の整備と自主防災組織の育成などによる防災体制の整備を促進するとともに、安心して暮らせる環境の構築を図ります。また、原子力防災体制の整備強化に努めます。
- 主要地方道石巻鮎川線の整備促進を関係機関に働きかけるとともに、地域性を踏まえた公共交通の確保により、住民生活や経済活動の利便性向上と地域間交流の活性化を図ります。

- 離島における海上輸送交通を確保するため、網地島・田代島の住民代表、関係する航路事業者及び行政による「石巻市離島航路運航調整会議」などでの協議を重ねながら、より利便性の高い航路運航の確立を図っていきます。
- 本市の資源である豊かな海域、漁場を守るため松くい虫対策をはじめとする森林環境保全に努めながら、生活排水対策など自然への負荷の少ない生活環境を形成し、快適で豊かなライフスタイル（生活の仕方）の実践を促進します。
- 移動通信電話やブロードバンド[※]などの情報通信基盤の整備を促進し、通信エリアの拡大や難視聴地域の解消など、都市部との情報格差の是正を図ります。